

市長メッセージ

皆さんおはようございます。

本日はお休みのところ、富士市職員オンライン採用説明会へ御参加いただきまして感謝申し上げます。

皆様方の中には、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、思うような就職活動ができない中で残念な思いをされている方もいるのではないかと思います。

本日は、せっかくの機会でありますので、皆様方に富士市のことを、よりよく知っていただきたい、そして、富士市のことを好きになっていただきたい、そのような思いで、これからお話しをいたします。

1. 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症による影響が1年以上続いている中で、地域の経済活動、また市民の生活も大きく変わらざるを得ない状況となっております。

こうした中で、これから我々がどうあるべきなのか、このことを問われてきた大事な1年ではなかったのか、また今後の1年間もそうした1年となるのではないかと思います。

新型コロナウイルス感染症の状況によって、国のレベルでは3つのことが求められているのではないかと思います。1つ目は「危機対応能力の強化・充実」、2つ目は「デジタル化の推進」、3つ目は「東京一極集中の是正」であります。

こうした中で、我々地方自治体はどうあるべきなのか。私は、このピンチをチャンスと捉え、これまでのマイナスを抜けだしてプラスに転じる、その好機と捉えなければならないと考えて、令和3年度をスタートしたところであります。

2. 目指す都市像「生涯青春都市」とは

私は市長になって8年目を迎えました。

市長に就任した平成26年の頃は、大手製紙会社の工場が閉鎖するなど、地域経済が非常に停滞しておりまして、市民の皆様も閉塞感を感じている状況でありました。

その状況を何とか打開をして、まちを元気に、人を元気にしなければならない、そのような思いで、私は目指す都市像を「生涯青春都市」といたしました。

アメリカの詩人サミュエル・ウルマンが『青春』という詩の中で、

「『青春』とは人生のある期間のことを言うのではなく、心の様相を言うのだ
人は信念と自信と希望ある限り若い、人は疑惑と恐怖と失望と共に老い朽ちる」
このように言っております。

私は、この「青春」という言葉をキーワードに、これまで様々な施策を展開していこうと考え、様々な取組を展開してきたところであります。

「生涯青春都市」とは、全ての市民一人ひとりが、かけがえのない個人として尊重され、毎日を心豊かにいきいきと暮らしながら、明るい未来に向かってチャレンジするまちであります。

「全ての市民」とは、老若男女、障害のある方も健常者も、貧困を抱えている方や性的マイノリティの方も、ありとあらゆる方々のことを指し、全ての市民が活躍できる、そんなまちにしたいという思いで、この「生涯青春都市」を目指す都市像としたわけであります。

3. シティプロモーションの推進

(1) シティプロモーションとは何か

その中で私が最も重要だと思ったのが、シティプロモーションの取組です。皆さんはシティプロモーションというと、どのような取組とお考えでしょうか。富士市のことを市外へと発信して、多くの方々に富士市を訪れていただきたい、それは、観光業にも繋がります。また、富士市へと移り住んでいただきたい、そのような取組とまず思うかもしれません。

シティプロモーションの最も大事なところは、実は市民に向けた取組ということなのです。

市民の皆様方が富士市の良さを理解していただいて、そして、それが富士市への愛着、郷土愛となり、結果的にシビックプライド（富士市への誇り）につながっていく。このような取組がシティプロモーションだと思っています。

私はシティプロモーションを進めていくキーワードを

「無いものねだりから、有るもの探しをしよう」と考えました。

私が市長に就任した時、富士市には、あれが無い、これが無い、と否定的な声が聞こえてきました。

実際に富士市のことをよく見てみますと、様々な魅力に満ち溢れています。しかし、そのことに気がつかない。

改めて、あるものを探そう。そして、それを磨き上げて、富士市の魅力にしていく。それを市民の皆様が全てが共有することで富士市が好きになる。

そういう方が、ひょっとして皆さんのように、進学等によって富士市を離れたとしても、常に富士市のファンとして、富士市の情報を外へと発信してくださる。

そして、行く行くは故郷の富士市へ帰ってきてくれたり、知り合いを富士市へと連れてきてくださる。

それが結果として、外へと発信をして、多くの方々が富士市へと訪れる、富士市に移り住んでくれる、そういうことに繋がってくるのではないかと思います。

ですから、このシティプロモーションは市民向けの取組が大変重要なのです。

(2) ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」

ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」についてお話しをします。ブランドメッセージは、富士市のあるべき未来の姿を短い言葉で述べて、それを発信していこうというものです。

いただきは、富士山。はじまりは、海、駿河湾のことです。

富士山周辺の自治体は、静岡県側、山梨県側と数多くありますが、海と富士山の両方を有し、海拔0メートルから海拔3776メートルの富士山頂を目指せるのは富士市だけです。

そして、海拔0メートルから富士山頂までの間の豊かな恵みによって富士市は発展し、富士市民は生かされてきました。

このことを我々市民はまず認識をして、富士市のすばらしさを内外に発信していくことが大変重要なのではないかと思います。

また、このブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」には、豊かな恵みに感謝をし、毎日のはじまりを大切に、自らのいただき、目標を目指して前に進んでいこう。このような前向きなメッセージも込めているところであります。

実は、富士市出身の歌手である結花乃(ゆかの)さんが「いただきへのはじまり」という歌を作詞作曲してくださいました。素晴らしい歌ですので、ぜひ皆さんもユーチューブで検索して、結花乃さんの素晴らしい歌を聞いていただけたら嬉しいなと思います。

4. 新年度の市政運営

「市民とともに創る生涯青春都市 富士市 変革の年」4つの重点的な取組

私は、新年度を「市民とともに創る生涯青春都市 富士市 変革の年」と位置づけました。まさに、この時期において多くのことを根本から変えていかなければならない。それが変革だと思っています。

(1) 新型コロナウイルス感染症対策に関連する取組

まず一つ目は、何と言っても新型コロナウイルス感染症対策に関連する取組であります。そして、我々が今、早急に取り組まなければならないのは、ワクチン接種であります。

一刻も早く、全ての希望する市民の皆様方にワクチンが行き届き、このコロナを打ち破り、市民の皆様方の日常生活、企業の活発な経済活動を取り戻す、これが第一の使命であります。

(2) 地方創生への取組（まち・ひと・しごと創生総合戦略）

そして二つ目は地方創生への取組です。

これまでも国が推進する、まち・ひと・しごと創生総合戦略による様々な取組を
してまいりました。富士市は特に産業のまち、工業のまちでありますので、
いかにこの工業をさらに振興していくのかが大きなテーマであります。

富士市が紙のまちとして発展してきたことは誰もがご存じかと思えます。

ペーパーレスや電子書籍の活用が進み、だんだんと紙が周りで使われなくなっ
てきている、そんな状況もありますけれども、今は脱プラスチックの時代でも
あります。

紙がプラスチックに取って代わる、実はそういう可能性も見えています。

そして、セルロースナノファイバー、これは紙の原料となるパルプを細く研ぎ
ほぐしたものであります。ナノというのは10億分の1の単位でありますので、
この10億分の1メートルという細かい微粒子まで繊維を研ぎほぐすことで、鉄
の5倍の強度、5分の1の軽さになると言われています。これは炭素繊維にも
代わりうるものであります。

車の車体、飛行機の機体の強度または軽量化にもつながります。

また、材料が木質でありますので、食品の添加物であるとか、化粧品や靴の底
など、様々な生活用品にもセルロースナノファイバーは活用できます。まさに夢
の素材ですね。

これを今、紙の技術を持っている富士市が全国の拠点として、このセルロースナ
ノファイバーの研究開発に努めているところです。このように新たな産業も
創出していこうという地方創成の取組も着実に進めているところであります。

(3) デジタル変革に関する取組

三つ目はデジタル化の推進であります。

富士市は昨年8月に「デジタル変革宣言」を行いました。デジタル変革宣言に
よって市民生活の向上、地域の活性化、行政経営の効率化を図ってまいります。

(4) SDGs 推進に関する取組

四つ目はSDGs 推進に関する取組であります。

昨年、富士市は「SDGs 未来都市」に選定されました。この未来都市は、全国
1,471ある自治体のうち、3年間で約90の自治体しか選定されていません。

社会、経済、環境、この3つの側面を着実に発展を遂げていく、その先導的取組
を富士市がこれからもしっかりと進めてまいろうと考えているところであります。

5. 全国に先駆けた取組

全国に先駆けた取組を4点お話しさせていただきます。この4点はSDGsの取組にも直結している内容です。

(1) セルロースナノファイバー（CNF）

一つ目のセルロースナノファイバーについては、先ほどお話をさせていただきました。

(2) ユニバーサル就労の推進

二つ目のユニバーサル就労の推進は、日本国内を先駆けて富士市が一番最初に取り組んだ考え方です。

障害者の就労という取組は、これまでも自治体や企業がやってまいりました。

ユニバーサル就労は、様々な事情により働きたくても働くことができない方々を就労支援しようという取組です。

それは障害をお持ちの方のみならず、母子家庭、父子家庭、貧困家庭、ニート、引きこもり、性的マイノリティの方々、高齢者や妊婦、持病を持っている方々、要は、障害者雇用の枠に入らない方々も全て対象として取り組んでいこうというものです。

特にこの取組の素晴らしさは、オーダーメイド方式という、その方の就労の可能な範囲、どういったことができるのか、一日どれくらいの時間仕事ができるのか、また、企業の側はどのような方を採用したいのか、そのマッチングを個別に対応していくところです。

従って富士市のユニバーサル就労によって就労できた方は、長くお勤めされています。お互いが理解しあいながら就労につながっています。全国に先駆けて富士市が取り組んでいるユニバーサル就労を全国に広げていきたいと考えています。

(3) トイレトレーラー

三つ目はトイレトレーラーです。これも富士市が第1号を採用しました。

どういうものかと言いますと、トレーラーですので、自分では走りません。

車で牽引をするコンテナです。

4つの部屋に分かれていて、それぞれ入口が別になっており、そこに、水洗トイレが完備され、照明もソーラーで完備されています。1回水をタンクに入れますと、1000回から1500回、用をたすことができます。このトイレトレーラーを災害時に持っていくわけです。

西日本の豪雨では岡山県の倉敷市、他にも千葉県君津市、長野県千曲市にもこのトイレトレーラーを送り出して、被災地の皆様方から大変感謝をされました。

SDGsの取組の中にも「トイレと水」という大きなテーマがあります。このことも富士市は率先して取り組んでおりまして、今現在、全国で13の自治体がこのトイレトレーラーを導入しています。

これが全国の自治体に、1自治体1台導入されれば、万が一災害が発生した時に、全国からトイレトレーラーが集結することで災害時におけるトイレの問題は解消するわけです。これを富士市から全国へ広げていこうと取り組んでいます。

(4) ゼロカーボンシティ宣言

四つ目はゼロカーボンシティ宣言です。菅総理大臣が宣言を発表してから、全国の自治体で宣言が始まっております。

富士市は工業のまちでありますので、多くのCO2を排出しているのではないかとお思いかもしれません。

実は、製紙産業は元々、熱や電気を必要としておりましたので、自ら発電をしてきました。調べてみますと、バイオマス発電容量が全国の自治体で日本一だということが判明いたしました。

そして、再生可能エネルギーの導入量ですが、富士市の全ての消費電力のうち、再生可能エネルギーを使っている割合が49パーセントです。

これは他の自治体と比べますと倍以上の割合になっています。私は、産業都市でありながら富士市は、ゼロカーボンシティ、2050年にCO2排出量をゼロにすることに最も近いのではないかと考えています。

6. 私が望む職員像

最後に皆さんが最も関心を持っているかもしれません、私が望む職員像についてお話しをします。私が望む職員像は、職員行動指針に込められていますので、皆さんも改めて調べてみてください。

一つ目「元気な挨拶をします」

若い人ほど率先して挨拶をする、それによって職場も活気づきます。

二つ目「現場主義に徹し市民の声を大切にします」

三つ目「『できる』という発想に立って考えます」

四つ目「コスト意識とスピード感をもって行動します」

五つ目「自己研鑽に励み、能力の向上に努め、困難な業務にチャレンジします」

公務員というのは同じことを着実に繰り返していればよい、そのような風潮がかつてはあったかもしれませんが、今はそうではない。

毎年、同じ施策を繰り返していればいい、このこと自身が行政にとって最大のリスクであると考えています。

ダーウィンが進化論の中でこのように述べたと伝えられています。

「強いもの、賢いものが生き残ったのではなく、変化したものが生き残ったのだ。」

やはり変革を目指していかなければならない。

そのためには、皆さん方のような若い、そして、柔軟な発想を持った人材が必要です。

どうか皆さん、これから受けるであろう採用試験において、いかに富士市のことを好きに思うか、そして、富士市のために力になりたいと思うか、その思いを皆さんの言葉で私たちに訴えてください。

今日の私からの話が、少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。

皆さんの健闘をお祈りいたします。ご清聴ありがとうございました。